

避難所施設利用サークルが避難所運営に協力する可能性の調査

宇都宮大学 学生会員 ○秋山 拓哉

全国地球温暖化防止活動推進センター 正会員 松本 美紀

宇都宮大学地域デザイン科学部 正会員 山岡 暁, 近藤 伸也

1. はじめに

近年, 東日本大震災や平成 30 年 7 月豪雨をはじめ, 大規模災害が頻発している. このような大規模災害時には, 公助の限界があるため, 自助・共助の重要性を内閣府が指摘している¹⁾. 平成 19 年新潟県中越沖地震では地域コミュニティセンターに設置された避難所では普段から活動していた防災とは関係のないサークルのメンバーが運営に積極的に参加した. この事例から, 小林らの研究では災害時には防災組織とは関係のない既存の地域コミュニティに, 災害支援のための共助機能が芽生える可能性が指摘されている²⁾.

そこで, 本研究では, 防災組織とは関係のない既存の地域コミュニティを対象とし, 災害時における潜在的な共助能力を調査することで, 既存の地域コミュニティの共助可能性を検討する. 具体的には, 指定避難所である地域コミュニティセンターを利用しているサークルを対象として避難所運営に協力する可能性について分析する.

2. 調査概要

(1) 調査対象

平成 27 年関東・東北豪雨時に, 浸水被害のあった栃木県小山市間々田地域にある間々田市民交流センター（以下=交流センターとする）を対象施設とする. この交流センターは平成 29 年に指定避難所に指定されている. 災害時における物流の拠点にもなっており, 避難所運営には多くの人の協力が必要となることが想定される.

この交流センターで活動している 46 サークル（2018 年 11 月時点）を対象としている.

(2) 調査概要

46 サークルに所属する計 376 名に対し, 2018 年 11 月 21 日から 11 月 27 日の期間に, アンケートを実施した. アンケートは無記名自記式であり, 各活動団体及びサークルの活動日に手渡しし, 回答を求めた. 回収は交流センター窓口横に回収ボックスを設けた.

(3) アンケートの構成

アンケートは個人属性と得点項目, 自由記述で構成される. 回答者の個人属性として性別, 年齢, 居住地区, 指定避難所としての認知度, 施設利用頻度, 物資集積所としての認知度, 交流センター外で被災した場合の避難所支援意思, 防災組織への加入, 被災経験, 交流センター内で被災した際の個人での避難所支援意思, 交流センター内で被災した際のサークルで協力しての避難所支援意思, で構成した. 得点項目として, 避難所として受援が必要とされる活動（20 項目）について個人の場合とサークルで協力した場合について支援可能かどうかを問う項目, 参加サークルに対する意見や考え（8 項目）で構成した.

3. 結果

(1) 単純集計

回答者の個人属性を表-1 に示す.

(2) 一元配置分散分析

図-1 に示した避難所として受援が必要な役割のうち支援可能と回答した数を回答者毎に単純加算して一つの合成変数とした, 個人で支援できる役割を加算したものを個人得点, サークルで協力して支援できる役割を加算したものを協力得点とした. 個人得点, 協力得点を従属変

表-1 回答者の属性

	N (%)
性別 男性	51 (23.2)
女性	169 (76.8)
居住地区 間々田地区	146 (66.4)
それ以外	74 (33.6)
間々田市民交流センターが間々田地区の指定避難場所であることを知っている	
知っていた	144 (65.5)
知らなかった	76 (34.5)
間々田市民交流センターが, 災害時の物資集積所になっていることを知っている	
知っていた	75 (34.1)
知らなかった	145 (65.9)
避難所支援や避難者の支援活動の手伝いに積極的に関わるか?	
思う	142 (64.5)
思わない	18 (8.2)
間々田市民交流センターには避難しない	60 (27.3)
自主防災組織や消防団, 婦人防火クラブなどに所属していますか?	
所属している	16 (7.3)
所属していない	168 (76.4)
存在を知らない	36 (16.4)
被災経験	
経験なし	59 (26.8)
経験あり	161 (73.2)

キーワード 避難所, 支援, サークル

連絡先 〒321-8585 栃木県宇都宮市陽東 7-1-2 宇都宮大学 TEL. 028-649-6223 E-mail : t152802@cc.utsunomiya-u.ac.jp

表-2 一元配置分散分析結果：個人得点

		N	平均値	F値	p	多重比較
問4	間々田市民交流センターが間々田地区の指定避難場所であることを知っていましたか？					
	知っていた	144	8.60	3.307 *		
	知らなかった	76	7.39			
問9	あなたが間々田市民交流センター以外の場所で被災して、間々田市民交流センターに避難してきたと、このサークルメンバーが避難所運営や避難者の支援活動の手伝いをしていたら、あなたもその手伝いに積極的に加わろうと思いますか？					
	①思う	142	9.31	12.995 ***		①>②, ③
	②思わない	18	5.33			
	③そもそもここには避難しない	60	6.38			
問12:被災経験						
	大雪 経験なし	51	8.137	3.061 *		
	経験あり	8	11.38			
	大雨・豪雨 経験なし	43	7.558	7.447 ***		
	経験あり	16	11.31			
	土砂災害 経験なし	55	8.236	4.021 *		
	経験あり	4	13.25			

*p<.10, **p<.05, ***p<.01

表-3 一元配置分散分析結果：協力得点

		N	平均値	F値	p	多重比較
問9	あなたが間々田市民交流センター以外の場所で被災して、間々田市民交流センターに避難してきたと、このサークルメンバーが避難所運営や避難者の支援活動の手伝いをしていたら、あなたもその手伝いに積極的に加わろうと思いますか？					
	①思う	142	10.15	12.595 *		①>②, ③
	②思わない	18	4.61			
	③そもそもここには避難しない	60	6.52			
問11	あなたは、あなたの住んでいる地域の自主防災組織や消防団、婦人防火クラブなどの防災に関わる組織に所属していますか？					
	①所属している	16	7.88	2.233 *		②>③
	②所属していない	168	9.18			
	③存在を知らない	36	6.86			
問12:被災経験						
	地震 経験なし	31	11.39	4.0895 **		
	経験あり	28	8.11			
	大雨・豪雨 経験なし	43	7.56	7.447 **		
	経験あり	16	11.31			

*p<.10, **p<.05, ***p<.01

数とし、個人属性を独立変数として一元配置分散分析を行った。その中から有意差の認められた結果を表-2および表-3に示す。

4. 考察

個人得点の分散分析結果から、サークルメンバーに関わらず、個人でも避難所運営や支援に携わりたいと考える人は、交流センターが指定避難場所であることを知っている人、や避難者として避難してきた場合でも積極的に避難所運営を手伝おうという思いのある人、大雪、大雨・豪雨、土砂災害の被災経験のある人であった。このことから、平常時から、自身が利用する施設について、その機能等に対する理解の高い人や災害経験のある人が、自ら避難所運営に携わる意志があると考えられる。

また、サークルメンバーとであれば、避難所運営や支援に協力できる可能性の高い人は、普段は、自主防災組織などの地域の防災組織に所属しない人や、地震の被災経験のない人、大雨・豪雨の被災経験がある人であった。この結果から、大きな地震による被災経験もなく、地域の防災組織に関わりはないが、誰かと一緒にあれば避難

所運営支援に協力できる傾向が確認できた。また、大雨・豪雨災害の経験者も同じ傾向があり、平成27年関東・東北豪雨の経験から、災害時の避難所生活の苦労を理解しているため共助可能性が高くなったと考えられる。

5. 結論

本調査より明らかになった点を以下に示す。

- 1) 浸水による被災経験がある回答者は、個人得点、協力得点ともに高い傾向にある。
- 2) 平常時に地域の防災組織に関わっていない人でも、サークルメンバーとであれば避難所運営に協力してもらえる可能性が高い。
- 3) サークルメンバーではなくても、利用施設の災害時の機能を知っていれば、避難所運営に協力してくれる可能性が高い。

参考文献

- 1) 内閣府：共助による地域防災力の強化～地区防災計画制度の施行を受けて～、平成26年版内閣府防災白書特集、2014
- 2) 小林英史・古市太郎・中村一樹：地域コミュニティを主体とした避難所運営の可能性に関する考察—2007年新潟県中越沖地震時の柏崎市比角地区を事例として—、地域安全学会論文集 No.13, 2010